

令和5年度事業報告

(令和5年7月1日～令和6年6月30日)

特定非営利活動法人瀬戸内海研究会議

1. 基本方針

「特定非営利活動法人瀬戸内海研究会議」（以下「研究会議」という。）は、平成25年4月1日に「瀬戸内海研究会議」を改組し、特定非営利活動法人として発足した。研究会議は、新たな組織体制のもと、瀬戸内海的环境を取り巻く情勢変化に対応し、次の基本方針に基づく諸事業を推進している。

- (1) 研究会議は、自然科学はもとより社会科学、人文科学等を含めた学際的な集団であり、また、学・産・官・民の研究者等の集合体でもあることから、会員の研究発表及び会員相互の情報交換の場として組織の充実を図る。
- (2) フォーラムやワークショップを開催するなど、調査・研究の成果及びその他の関連情報（環境保全・創造をはじめ、地域づくりや観光・産業の振興等を含む。）の交換と普及を図る。
- (3) 瀬戸内海的环境の保全と適正な利用について研究し、必要な提言を行う。
- (4) 国、地方公共団体等が行う瀬戸内海に関する調査・研究に協力するとともに、助成財団等からの調査・研究助成の獲得に努める。
- (5) （公財）国際エメックスセンターが行う世界の閉鎖性海域環境保全活動への参加、協力を行うとともに、関係団体と交流し、学際的な情報と技術の交流を図る。
- (6) （公社）瀬戸内海環境保全協会が実施する調査・研究・教育及び普及啓発に係る各種事業に対して、必要な助言及び支援を行う。

2. 特定非営利活動に係る事業

(1) 調査研究に関する事業

①「瀬戸内海的环境保全・創造に係る研究委託事業」の実施（令和5年度）

研究会議は、瀬戸内海環境保全知事・市長会議（以下、「知事・市長会議」という）からの委託を受け、瀬戸内海的环境保全・創造に係る研究を実施した。

ア 研究テーマ

テーマ1 瀬戸内海の栄養塩類濃度低下がもたらす低次生態系の変化に関する研究

テーマ2 瀬戸内海に流入する海洋プラスチックごみの起源と分布に関する研究

イ 推進体制

駒井 幸雄（総括）、西川 哲也（テーマ1担当）、磯辺 篤彦（テーマ2担当）

ウ 研究内容

(7) 目的

テーマ1 瀬戸内海の栄養塩類濃度低下がもたらす低次生態系の変化に関する研究

瀬戸内海の栄養塩類濃度は、沿岸部と沖合部で異なり経年変化傾向も違うことが判明するとともに、栄養塩類濃度と海洋の基礎生産量の指標となる植物プランクトン量(Chla濃度)の間には単純な応答関係は認められず、栄養塩類濃度の減少がそのままChla濃度に連動しているわけではないことが示された。そのため、将来の高次生態系までを含

む統合モデルを構築に向けて、低次生態系の栄養塩類と植物プランクトンの関連性について詳細に研究する。

テーマ2 瀬戸内海に流入する海洋プラスチックごみの起源と分布に関する研究

瀬戸内海に流入した海洋プラスチックごみの起源と分布を明らかにするためには、数値モデルによるシミュレーションは有力な方法である。しかし、より精度の高いシミュレーションを行うためには、河川等を通して流入するプラスチックごみの負荷量などの基礎データを整備することが求められる。そこで、瀬戸内海における海洋プラスチックごみに関わる知見を取りまとめ、実態調査結果と合わせて現在の流入負荷量を評価し、瀬戸内海におけるプラスチックごみの分布を明らかにするとともに、今後の海洋プラスチックごみ対策に向けた提言をする。

(イ) 研究期間 令和4年度～6年度

(ウ) 実施方法

令和4年度に公募し、採択した3件のテーマに対して助成し、研究を進めた。

採択した研究者、テーマ、助成額は以下のとおり。

テーマ 区分	助成対象研究者氏名	設定テーマ	助成額
テーマ1	吉江 直樹 (愛媛大学沿岸環境科学研究センター 講師)	瀬戸内海における栄養塩濃度の時空間変動に伴う低次生態系応答に関する研究	150 万円/年
テーマ2	原田 禎夫 (同志社大学経済学部 准教授)	海洋プラスチック汚染の防止に向けた陸域におけるプラスチックごみの散乱状況の把握と流出防止策の研究	150 万円/年
	石塚 正秀 (香川大学創造工学部 教授)	播磨灘南部を対象とした海洋プラスチックごみの起源と分布に関する研究	110 万円/年

エ 事業の実施状況

- R6. 2. 14 研究成果発表会 (テーマ1)
(第1回知事・市長会議とのWGも兼ねる)
- R6. 2. 27 研究成果発表会 (テーマ2)
(第2回知事・市長会議とのWGも兼ねる)
- R6. 3. 28 5年度事業実施報告書の提出
- R6. 4. 1 知事・市長会議と研究に係る委託契約

②「大阪湾圏域の海域環境再生・創造に関する研究助成制度」に係る受託業務の実施

ア 令和5年度助成研究結果の報告及び成果発表会の開催

大阪湾広域臨海環境整備センターが創設した「大阪湾圏域の海域環境再生・創造に関する研究助成制度」により令和5年度に助成を受けた大学・研究機関等による研究の結果をとりまとめ、大阪湾広域臨海環境整備センターに報告を行った。

また、令和5年度に助成を受けた大学・研究機関等の成果発表会を開催した。

(会場開催とWeb開催によるハイブリッドで開催)

・日 時：令和6年4月23日(火) 13:30～16:30

・場 所：スペースアルファ三宮 大会議室
(兵庫県神戸市中央区)

・参加者：87 名（うち、Web 参加者 52 名）

・内 容

◆開会

○あいさつ

馬場 康弘

大阪湾広域臨海環境整備センター常務理事

◆個別発表

助成を受けた次表の大学・研究機関等から研究成果について発表があった。



成果発表会での発表者の氏名、所属名、研究課題名

発表順	発表者氏名	所 属 名	研 究 課 題 名
1	坂井 啓明	東京大学大学院理学系研究科	大阪湾における生物必須微量元素の環境－生態系循環解析
2	中谷 祐介	大阪大学大学院工学研究科	大阪湾の水質変動に及ぼす波浪の影響評価
3	齋藤 光代	広島大学大学院先進理工系科学研究科	流域からの栄養塩流出変遷が大阪湾沿岸の栄養塩収支に及ぼす影響の陸域－海域統合評価(その2)
4	古賀 佑太郎	ひょうご環境創造協会兵庫県環境研究センター	播磨灘の栄養塩類流入負荷量の変化が水質・低次/高次生態系に与える影響予測：モンテカルロ法を用いた食物連鎖モデルによる解析
5	李 文驕	京都大学大学院地球環境学堂	大阪湾における薬剤耐性菌・遺伝子の存在実態および海洋プラスチックを介した水平伝播ポテンシャルの検討(その2)
6	富山 毅	広島大学大学院統合生命科学研究科	高次捕食者がイカナゴ資源に及ぼすトップダウン効果の検証(その2)

イ 令和6年度「大阪湾圏域の海域環境再生・創造に関する研究助成制度」に係る業務の受託

大阪湾広域臨海環境整備センターから令和6年度の「大阪湾圏域の海域環境再生・創造に関する研究助成制度」に係る業務を受託し、助成を希望する研究団体等の募集を行った。

・募集期間：令和6年4月1日（月）～5月7日（火）

・応募件数：12 件

・選 考：令和6年6月14日（金）の予定

(2) 調査研究成果の普及・教育に関する事業

① 瀬戸内海研究フォーラム in 山口の開催

産・官・学・民による瀬戸内海に関する学際的な研究や事例発表・会員相互の交流の

場とするため、令和5年8月に山口県山口市で「瀬戸内海研究フォーラム in 山口」を開催した。

- ・ 日 時：令和5年8月26日(土)～27日(日)
- ・ 場 所：山口大学吉田キャンパス
- ・ 参加者：224名
- ・ テーマ：今再び、瀬戸内海から、我ら共有の“未来”を考える
- ・ プログラム

8月26日(土)

開会 13:00 ～ 13:20

趣旨説明 運営委員長：関根 雅彦（山口大学）

基調講演 13:25～13:50

「瀬戸内海における環境政策～きれいで豊かな瀬戸内海の実現に向けて」

講演者：木村 正伸（環境省 海域環境管理室長）

第1セッション 13:55 ～ 15:40

テーマ：生き物を支える干潟・藻場

座長：南條 楠土（水産大学校 講師）

☆干潟の基盤種アサリを食べる魚たち：鍵種クロダイの食性を中心にして

水産技術研究所 主任研究員 重田 利拓

☆山口県沿岸の藻場とその現状

水産大学校 准教授 阿部 真比古

☆周防灘の干潟の生物多様性と保全の重要性 [リモート講演]

NPO法人南港ウェットランドグループ 理事 和田 太一

第2セッション（ポスターセッション） 15:50 ～ 17:40

テーマ：瀬戸内海と周辺地域の環境・経済・社会に関する研究・活動報告

（ポスター発表）

座長：杉本 憲司（宇部工業高等専門学校 教授）

- ・ ポスター概要発表（フラッシュ発表）（1人1分）

8月26日(土) 15:55～16:35

- ・ ポスター前説明

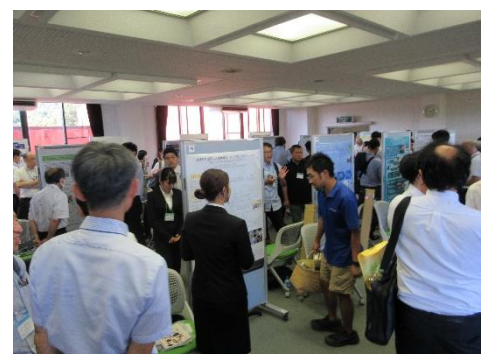
8月26日(土) 16:40～17:40

8月27日(日) 11:15～12:45

特定非営利活動法人瀬戸内海研究会議 総会

17:45～18:15

交流会 18:30～20:00



8月27日（日）

第3セッション 9:30 ～ 11:15

テーマ：瀬戸内海の最近の環境課題と多角的アプローチ

座長：山本 浩一（山口大学大学院 教授）

☆気候変動がもたらす瀬戸内海の変化

広島大学 教授 西嶋 渉

☆別府湾海底に堆積するマイクロプラスチック量ー75年間の変遷ー

愛媛大学 教授 日向 博文

☆瀬戸内海におけるブルーカーボン

宇部工業高等専門学校 教授 杉本 憲司

第4セッション 12:45 ～ 14:30

テーマ：人々の暮らし・里海のこれまでとこれから

座長：元永 直耕（山口県環境保健センター 専門研究員）

☆樺野川河口干潟における里海再生の取組

山口県自然保護課 主任技師 柿菌 博美

山口県環境保健センター 専門研究員 元永 直耕

☆海辺の市民活動

ひかりエコメイト 会長 藪 博昭

☆ウニ畜養ビジネスを通じた漁業者も地域も潤う磯焼け対策

ー山口と大分での実績を踏まえてー

ウニノミクス(株)事業開発・渉外責任者 山本 雄万

総括・ポスター賞表彰式・閉会 14:40 ～ 15:10

【最優秀賞】

江川 裕基 特定非営利活動法人

クリーンオーシャンアンサンブル

【優秀賞】

出口 博之 大阪大学大学院工学研究科

鹿島 千尋 大阪大学大学院工学研究科

黒木 咲良 山口大学工学部社会建設
工学科



② 瀬戸内海の環境保全・創造に係る研究ワークショップの開催

平成 27 年(2015 年)の瀬戸内海環境保全特別措置法（以下「瀬戸内法」という）の改正で理念の方針転換があり、「豊かな瀬戸内海」を目指すこととなったが、総論賛成、各論は模索中の状況である。さらに「豊かな瀬戸内海」の実現には、瀬戸内海独自の問題の他に、地球規模の環境変動に伴う水温上昇、海洋酸性化、貧酸素化などへの対応も必要となっている。

令和 5 年(2023 年)、瀬戸内海環境保全特別措置法制定 50 周年を迎えるにあたり、こ

れまでの瀬戸内海環境保全知事・市長会議からの委託研究の成果を「豊かな瀬戸内海の実現」の視点から包括的に検討、再編成して、さらに不足部分を補充して、「豊かな瀬戸内海の実現」に寄与できる提言書の作成にとりかかった。ワークショップは、提言書作成の中間報告の場として位置付け、提言書各章の執筆責任者から各章での提言案を発表してもらい、ワークショップ参加者との意見交換を通じて、提言書作成に資することとした。

日 時：令和5年12月19日（火）13:00～17:00

場 所：スペースアルファ三宮 大会議室（神戸市中央区）

テーマ：瀬戸内海を豊かな海に～何をすべきか～

講 演：

ア 今、何をなすべきか～提言の必要性と検討の経緯

松田 治（（特非）瀬戸内海研究会議 理事長）

イ 瀬戸内海的环境管理制度ならびに人文社会科学的側面

日高 健（近畿大学産業理工学部 教授）

ウ 瀬戸内海の水質と底質～その現状と将来に向けて～

多田邦尚（香川大学農学部 教授）

エ 瀬戸内海的环境変動と生態系の応答～その理解と予測に向けて～

吉江直樹（愛媛大学先端研究・学術推進機構 先端研究高度支援室、URA・准教授）

オ 未来のために知っておきたい海とプラスチックの話

原田禎夫（同志社大学経済学部 准教授）

カ 瀬戸内海のブルーカーボン・環境学習

上月 康則（徳島大学環境防災研究センター 教授）

パネルディスカッション：

テーマ：「豊かな瀬戸内海」の夢を語ろう

コーディネーター：駒井幸雄

パネラー：講演者（6名）

参加者：120名（うち、85名がWeb参加）



講演の状況



パネルディスカッションの状況

③ 瀬戸内海環境保全トレーニングプログラムへの支援・協力

（公社）瀬戸内海環境保全協会が、会員の新たに水環境保全業務に従事する職員を対象に実施している「瀬戸内海環境保全トレーニングプログラム」の講師に関し、協力した。

- ・日時：令和5年10月18日（水）～20日（金）
- ・場所：和歌山県和歌山市 スマイルホテル和歌山
- ・参加人数：24名（10府県14市）
- ・講義：
 - 「瀬戸内海の海洋環境総論～地球環境も視野に入れて～」
講師 広島大学 名誉教授 松田 治
 - 「瀬戸内海における環境政策と未来の方向性」
講師 環境省水・大気環境局海洋環境課海域環境管理室 室長補佐 森川政人
 - 「貧栄養化・気候危機と水産資源：低次-高次生態系網の視点から」
講師 大阪公立大学大学院工学研究科 教授 相馬明郎
 - 「海洋ごみ問題の改善に向けて：大阪湾での取組」
講師 大阪公立大学大学院現代システム科学研究科 准教授 千葉知世
 - 「水環境再生のために必要な内湾の流れと水質の視点：大阪湾を例に」
講師 大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻みず工学領域教授 入江政安
 - 「和歌山県における水環境保全の取組」
講師 和歌山県環境生活部環境政策局環境管理課環境保全班長 山本道方
- ・現地研修（視察）
 - 「友ヶ島における海洋漂着ごみの実態と取組み（一社）加太・友ヶ島環境戦略研究会の活動紹介と案内」
案内・説明：徳島大学大学院 非常勤講師／（一社）加太・友ヶ島環境戦略研究会
環境教育部ディレクター 平井研 氏
- ・ワークショップ



講義



現地研修(視察)

④ 「小西和の伝記」に係る出版

ア 趣旨

明治44年に瀬戸内海を総合的に論じた「瀬戸内海論」を著し、瀬戸内海の国立公園化（昭和9年）に大きく貢献した小西和^{*}（こにしかなう）の伝記を（特非）瀬戸内海研究会より出版し、瀬戸内海のすばらしさとその重要性を理解し、瀬戸内海が世界に誇るべき内海であることを認識できるようにする。

※小西和（こにし・かなう） 明治6年香川県生まれ，札幌農学校中退，北海道開発を志し，のち東京朝日新聞入社，日露戦争特派員，衆議院議員当選7回，昭和22年死去。

イ 書籍のタイトル 『瀬戸内海国立公園の父・小西和』

ウ 出版方法

- (1) 香川県さぬき市学芸員の山本一伸氏が原稿を無償執筆
- (2) 山本氏が執筆した原稿をもとに研究会議(多田先生を中心に)が監修
- (3) 出版方法
 - ・ 発行：有限会社ディークリエイト
(東京都渋谷区上原 1-4-2-102 代表者 西垣成雄)
 - ・ 著者：山本一伸（監修：(特非)瀬戸内海研究会議)
 - ・ 研究会議への提供部数：初版第1刷(600部)の際に400部、増刷の都度20部
 - ・ サイズは四六版で縦書き

エ これまでの経過(令和5年度)と今後のスケジュール

R5.11月～R6.6月 校正(3回目)
校正終了後、伝記の出版(令和6年度を予定)

オ 瀬戸内海国立公園の父・小西 和 目次

本書の発刊によせて

はじめに

小西と主に交流のあった人物

第1章	北海道にかける夢	1
	(誕生 ～ 27歳)	
第2章	ジャーナリストとして再生を誓う	19
	(28歳 ～ 31歳)	
第3章	瀬戸内海の研究に没頭	27
	— 名著『瀬戸内海論』の執筆 —	
	(32歳 ～ 38歳)	
第4章	国会議員としての使命	49
	(39歳 ～ 64歳)	
第5章	瀬戸内海への思い	79
	(65歳 ～ 74歳永眠)	

おわりに 89

参考文献一覧

小西和主要年譜

(3) 提言に関する事業

知事・市長会議総会において、同会議より委託を受けた瀬戸内海の環境保全・創造に係る研究成果について報告を行い、行政施策への活用を提言を行った。

令和4年度研究成果報告

- ・日 時：令和5年11月12日（日）
- ・場 所：神戸国際会議場（兵庫県神戸市）

(4) ホームページによる情報発信

研究会議が実施する各種事業の周知及び調査・研究事業の推進等を図るため、会員相互の情報ネットワークとして研究会議のホームページの運用・管理を行った。

3. 事業実施体制

(1) 会議に関する事項

① 令和5年度通常総会

- ・日 時：令和5年8月26日（土） 17:55～18:25
- ・場 所：山口大学 吉田キャンパス 大学会館 大ホール（山口県山口市）
- ・内 容：
 - 第1号議案 令和4年度事業報告及び決算報告に関する件
 - 第2号議案 役員の選任に関する件
 - 第3号議案 定款の変更に関する件
 - 報告事項1 令和5年度事業計画及び予算
 - 報告事項2 会員の入会状況等

② 理事会

ア 第24回理事会

- ・日 時：令和5年7月14日（金）
- ・場 所：書面開催※
- ・内 容：
 - 第1号議案 令和4年度事業報告及び決算報告に関する件（総会付議事項）
 - 報告事項
 - (7) 会員の状況
 - (4) 令和5年度通常総会の開催

※ 令和2年7月29日開催の第18回理事会で、7月の定例理事会は書面開催することとなった。

イ 臨時理事会

- ・日 時：令和5年10月12日（木）
- ・場 所：書面開催
- ・内 容：
 - 第1号議案 樋渡彩企画委員の任期の変更について

ウ 第25回理事会

- ・日 時：令和6年6月27日（木） 10:00～12:00
- ・場 所：神戸市立中央区文化センター 1101号室（神戸市中央区）

- ・内 容 :
 - 第 1 号議案 令和 6 年度事業計画並びに予算案に関する件
 - 第 2 号議案 豊かな瀬戸内海に向けた提言事業
 - 第 3 号議案 瀬戸内海研究フォーラム in 大阪の開催計画
 - 第 4 号議案 役員の選任に関する件（総会付議事項）
 - 報告事項
 - (ア) 令和 5 年度事業実施状況

③ 企画委員会

ア 第 1 回企画委員会

- ・日 時 : 令和 5 年 10 月 31 日 (火) 15 : 00～16 : 30
- ・場 所 : 神戸市立中央区文化センター 1101 号室 (神戸市中央区)
- ・内 容 :
 - (ア) 企画委員長の選任
 - (イ) 令和 5 年度事業の実施状況
 - (ウ) 令和 6 年度事業計画
 - (エ) 瀬戸内海環境保全特別措置法 50 周年記念式典

イ 第 2 回企画委員会

- ・日 時 : 令和 6 年 1 月 26 日 (金) 13 : 30～15 : 00
- ・場 所 : 神戸市立中央区文化センター 1101 号室 (神戸市中央区)
- ・内 容 :
 - (ア) 令和 5 年度事業の実施状況
 - (イ) 令和 6 年度事業計画

ウ 第 3 回企画委員会

- ・日 時 : 令和 6 年 6 月 14 日 (金) 13 : 30～15 : 00
- ・場 所 : 神戸市立中央区文化センター 1003 号室 (神戸市中央区)
- ・内 容 :
 - (ア) 令和 5 年度事業実施状況
 - (イ) 令和 6 年度事業計画案並びに予算案
 - (ウ) 役員の選任

(2) 会員に関する事項 (令和 6 年 6 月 30 日現在)

会員数 個人会員 103 名 団体会員 15 名 合計 118 名
 (令和 5 年 6 月 30 日現在 : 個人会員 107 名 団体会員 15 名 合計 122 名)

(3) 連携団体

瀬戸内海環境保全知事・市長会議
 公益社団法人瀬戸内海環境保全協会
 大阪湾広域臨海環境整備センター
 公益財団法人国際エメックスセンター